トビーキッズのたんけん隊

１．参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
３０	１１１	３６	３６

２．事業内容（概要）

◆ねらい

・若狭湾の自然で思い切り遊ぶことを通して、自然と親しむ心と体を育む。
・自然の中での様々なチャレンジを通して、意欲を高め、自信をつける。
・四季を通した体験を通して、地域の自然の豊かさ、面白さに気づく。

◆期日・期間

①春のたんけん　平成 29 年　5 月 13 日（土）～ 5 月 14 日（日）【1 泊 2 日】
　～わかさわんで、はじめてのお泊りに挑戦しよう！～
②夏のたんけん　平成 29 年　7 月 15 日（土）～ 7 月 17 日（月）【2 泊 3 日】
　～２泊３日でスノーケリングやむじん浜でのテント泊に挑戦だ！～
③秋のたんけん　平成 29 年 10 月 21 日（土）～10 月 22 日（日）【1 泊 2 日】
　～実りの秋、収穫の秋、秋の恵みを探しに行こう！～
④冬のたんけん　平成 30 年　2 月 3 日（土）～　2 月 4 日（日）【1 泊 2 日】
　～雪遊びで寒さを吹き飛ばそう！４回のたんけんのまとめ～

◆連携機関

＜後援＞
　福井・岐阜・愛知・滋賀・京都　各府県教育員会
＜協力＞
　秋のたんけん　農業生産法人かみなか農楽舎（福井県三方上中郡若狭町末野）
　　農業体験、野外炊飯の食材提供
　冬のたんけん　マキノ高原マキノスキー場（滋賀県高島市マキノ町牧野）
　　雪遊び体験の場所として

◆参加者分析

昨年度に引き続き、表１のように、近隣の府県から多数の申し込みをいただいた。福井県嶺南地域とその地域に隣接する滋賀県高島市には、対象学年である１年生～３年生の児童全員に要項とチラシを配布してもらうように、各市町の教育委員会に依頼した。それ以外にも、昨年度フェスティバル等の当施設の事業に参加した家族にも、年間の事業スケジュールとともにチラシを配布している。その他、ホームページ、フェイスブック等でも広報した。

昨年度も参加してくれたリピーターも〇名応募している。抽選については、リピーターも考慮せず、申し込んでいただいた全員を対象に、申込者の学年比や男女比を定員 36 名に合わせ、行った。

定員については、昨年度より１名増やし、36 名とした。昨年度は、7 人×5 班の計 35 名を参加者として抽選で決定したが、班のメンバーが奇数であると、夏のスノーケリングでのバディが組みにくいことや、班の数が奇数であると、いくつかの班をまとめて活動をしたい時に組みにくいことがあった。そこで、本年度は、6 人×6 人の 36 人とすることとした。

表１．申込者及び参加者の地域について

	福井県	滋賀県	京都府	愛知県	岐阜県	大阪府	兵庫県	合計
申込者	62	29	11	3	2	2	2	111
参加者	18	8	6	0	2	1	1	36

◆企画のポイント　（日程・特色など）

- 春のたんけんの内容を大きく変えた以外は、昨年度を踏襲したプログラムとして企画をした。
- 昨年度は、春のたんけんで、海の生き物探しをメインの活動として、自然に対する興味・関心、自然を見る目を持つきっかけとする機会として実施した。子どもたちは、意欲的に海の生き物を探して、それを丁寧に観察したり、スケッチしたりしていた。
- 本年度は、その少し方向性を変え、自然の中での生活、キャンプや野外炊飯（自分たちで食事を作る体験）をそれぞれの回で毎回実施し、積み重ねによる成長を見たいと考えた。
- そこで、春のたんけんでは、テント設営や片付けを丁寧に説明し、子どもたちが協力して、夏や秋の体験でできるようにしたいと考えた。
- 野外炊飯も、春、夏、秋とメニューをカレーライスと決め、うまくいったこと失敗したことを次につなげられるように考えた。そのため、春は、時間をゆったりと取って実施することとした。
- ４回の活動に何かしらのつながりを持たせるられるようにしたいと考えて企画をしている。

◆運営のポイント

- 特に１年生は、この前まで、幼稚園、保育所に通っていた子どもたちである。親元を離れ、一人で泊まるの体験をしている子は、それほど多くないと考え、生活面のサポートを重視して運営するようにした。
- 特に、持ち物の整理やお風呂、排泄など、職員、ボランティアスタッフが丁寧にサポートをすることを心がけた。
- 各回の子供達の様子をボランティアスタッフに記録してもらい、子どもたちの成長や友達関係を、連続して見取ることができるようにした。
- 参加の案内については、子どもたちの持ち物や服装について、特に丁寧に説明することを心がけた。春のたんけんでは、イラストを用いて、分かりやすく伝えるようにした。

３．事業の実際

＜春のたんけん＞

◆日程

５月１３日（土）										10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
										受付	仲間作りタイム はじまりのつどい	昼食	春のたんけん① 「テントを立てよう」	「しぜんの家をたんけんしよう」		野外炊飯に挑戦！			「ナイトハイキング」 春のたんけん②		テントで寝よう 入浴	※ログハウス泊になることもあります。
５月１４日（日）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15												
	起床		朝のつどい 朝食づくり テント片付け		春のたんけん③	「浜辺のたんけん」	昼食	春のたんけんのまとめ 「春の絵を描こう」 「夏のけいかく」 おわりのつどい														

◆様子

春のたんけんで初めて顔を合わす子どもたち。そのほとんどの子どもたちがテントを張ることも、野外炊事を行うことも、そして、親元を離れてテントで寝ることも初めてです。特に、１年

生はついこの間まで、保育所か幼稚園に通い、たくさんの遊びを通して、様々なことを学んできた子どもたちです。その力を信じながらも、サポートする気持ちも持って、職員、ボランティアスタッフは活動に臨みます。

１日目のテント張り、“自分が寝るテント”だけを張るのではなく、班で２つのテントを張ることを伝えると、ボランティアスタッフの助けも借りながら、骨組みを建てたり、フライシートを張ったり…。「そっちを持って！」「せえの！」など、互いに声を掛け合い、積極的に一生懸命に取り組む姿が見られました。2 日目の片付けも、みんなで協力して、思った以上に短い時間で片付けが完了しました。

住んでいる地域も、学校も、学年も違う子どもたち。初めは、なかなか自分を出せない子、自分の思うままに行動したりする子など、様子も様々でしたが、活動を通して、ちょっとずつ積極的に行動したり、協力したりすることができるようになってきました。

「何が楽しかった？」の質問に、「テント張り」「テントで寝たこと」とテントでの思い出を語る子どもたちの姿が印象的でした。

今年度のキッズも始まったばかり、たった２日間のキャンプだけでも、仲良くなったり、成長を見せてくれたり。そんな子どもたちの姿に、今後の活動も楽しみになった春のたんけんでした。

ゲームで仲良くなろう

荷物を持ってキャンプ場へ

テントも協力して立てます

カレー作りに挑戦

包丁、うまく使えるかな

美味しくできた！

美味しくできた！

自由時間も楽しい

元気に帰ってきたよ！

夏は、この海に入ろう！

◆アンケート結果

＜参加者＞

項目	４	３	２	１
ぜんたいのかんそうは、どうでしたか。	71.4	22.9	5.7	0.0
テントでのお泊りは、どうでしたか。	71.4	17.1	5.7	5.7
ぜんたいのすすめ方は、どうでしたか。	58.1	35.5	6.5	0.0
やがいすいはんは、どうでしたか。	81.8	12.1	0.0	6.1
しぜんのいえのひとは、どうでしたか。	76.5	20.6	2.9	0.0
ボランティアのおにいさん、おねえさんは、どうでしたか。	87.9	3.0	9.1	0.0

４満足　３やや満足　２やや不満　１不満（%で表示）

◆参加者の声（アンケートの自由記述より）

〇ほうちょうとかむずかしかけど、カレーがとてもおいしかった。
〇しぜんであそぶのがこんなにたのしかったとはおもいませんでした。
〇ほんとうにしぜんはすごいなーとおもいました。
〇海ですなをみずになげるといい音がしたり、見た目もきれいでした。すながじゃりとすなにわかれていました。
〇じぶんでとまれた。
〇はじめはこわいと思ったけれど楽しかった。
〇ここではいろいろなともだちができるんだな。
●まわりがうるさかったから、あまりねむれなかった。
●すごくねにくかった。

◆第１回春のたんけんのまとめ

初めてのテント泊、初めての野外炊飯、初めての一人での宿泊など、たくさんの初めてがあったことと思いますが、大きな怪我やホームシックなどもなく２日間を終えることができました。参加者のアンケートからも、自然で遊ぶことが楽しいと思ってくれた子、ちょっと自信を持った子、新しい友達ができた子など、参加者一人ひとりが何かしらの発見をしてくれていました。一方で、ボランティアスタッフが記録している参加者の様子からは、特に低学年の子に「着替えするときに服の管理は手助けが必要」「少し目を離すとすぐとっかに行ってしまう」など、生活面の支援をする場面が多かったように感じます。特に１年生は小学校に入ったばかり、普段の生活を通して、また、体験を重ねる中で、成長していく姿が見られることをこれからの楽しみにしていきたいと思う。

＜夏のたんけん＞

◆日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
7月15日（土）					移動・受付	はじまりのつどい	昼食（レストラン）	「夏のたんけん①」			「海になれよう！スノーケリング」			夕食（レストラン）	テント泊の準備	入浴	就寝 本館泊			
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
7月16日（日）	起床	朝食（レストラン） 朝のつどい		「夏のたんけん②」	「海のたんけん！スノーケリング」		昼食（レストラン）	「夏のたんけん③」		「大自然と海を味わうキャンプ！」	テント設営	キャンプの準備	カレー作りに挑戦	野外炊飯	浜でくつろぐ夜	キャンプファイヤー	就寝 カタボコ浜・テント泊			
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15										
7月17日（月）	起床	朝食づくり 朝のつどい		「夏のたんけん④」	「片づけと浜遊び」	自然の家に帰ろう	昼食（レストラン）	秋のけいかく 夏のまとめ	おわりのつどい	解散										

◆様子

学校では、１学期が終わろうかという 7 月中旬。２ヶ月ぶりに出会う子どもたち。「あれ、ちょっと大きくなった？」と思わず声が漏れます。春のたんけんから２ヶ月しか経っていないのに…。きっと学校やその他の場所でもいろんな経験をしてきたんだろうなあと思います。体も大きくなってきて、たくましさを感じます。「今回も楽しみだなあ。」そんなことを思いながら夏キッズがスタートしました。

今回は、１泊目が自然の家で、２泊目が自然の家の隣の無人浜、カタボコ浜でのテント泊になります。1 日目の午後からは、海の活動。ウエットスーツとフローティングジャケットを着て、万全の態勢で海へ。今日は、海になれる活動として、浮く練習をメインに行います。

初めはちょっと怖そうにしている子どもたちも海慣れてくるとどんどん積極的に深いところまで泳いでいってみたり、生き物見つけに没頭したりと海の活動を楽しんでいます。

１年生のＳ君は、海がちょっと苦手そう。海に入る時から大学生ボランティアのお兄さんにぴったりとくっついて、ちょっとしたことでも「怖い！」と活動には消極的です。そんな S 君も、まわりのみんなが楽しく泳いでいる姿を見たり、ボランティアリーダーに励まされたりしながら、少しずつ海活動を楽しみ始めています。

さあ、一番の盛り上がりは、カッター桟橋からの飛び込みです。飛び込みでは、3 つのレベルを設定し、子どもたちが取り組みやすいように行います。桟橋から一段低くなっているところか

らをレベル１、桟橋の上からをレベル２、そしてターザンのようにロープを持っての飛び込みをレベル３とし、どのレベルからチャレンジするかを子どもたちに選ばせます。この活動で驚いたのが、女子の活躍です。ロープを持って、より高いところからより遠くに飛び込もうとしています。

さて、さっきのＳ君はというと…。案の定、怖がってなかなか飛び込めません。桟橋の上に座って、足をからゆっくり入ればいいんだよと順を追って促してみてもなかなか難しいようです。「怖がっているのに無理にさせる必要はないかな。でも、せっかくここまで海を楽しみ始めているのだから挑戦させたいなあ…。」そんなことを思っていると…、ボランティアリーダーと一緒にサブン！2 回目もサブン！飛び込むことができました。みんなの飛び込みに比べると、小さなジャンプだったのですが、チャレンジした彼の勇気は、誰よりも大きく高いものだったと思います。

2 日目の午後からは無人浜でのキャンプ。春のたんけんでの経験を活かして、テント設営も野外炊事もボランティアリーダーの力を借りているとはいえ、スムーズにこなしており、成長を感じます。

夜になり、なんだか雲行きがとても怪しくなってきました。遠くの方からは雷鳴も聞こえてきます。心配は的中し、夜中にも猛烈な雨に見舞われてしまいました。みんな、怖くないかな？眠れているかな？そんな心配をしながら迎えた朝。「昨日の夜はしっかり眠れた？」「雷とか怖くなかった？」の質問に、どの子も「うん。全然怖くなかったよ。」「寝れたよ。」と平然と答えてくれました。

自然とは、穏やかな時もあれば、厳しい時もあります。大人はどうしても自然の厳しさからは逃げてしまいたいと思いがち。でも、子どもたちは、穏やかさも厳しさも関係なく楽しんでいます。もちろん、自然を甘く見てはいけませんが、やはり自然は子どもたちをたくましく成長させてくれています。昨日のＳ君も。

次は、秋のたんけん。今度は、どんな成長が見られるか、楽しみです。

２か月ぶりに仲間との再会

みんなで浮けた！

あっ、魚だ！

飛び込み、気持ちがいい

バイキングも少し慣れてきた

２日目はスノーケリング

海の中を探検

どんな生き物がいるかな

ウニを見つけたよ

無人浜でテント設営

２回目のカレー作り

海を見ながら過ごしました

２泊３日のたんけん、楽しかったかな

◆アンケート

＜参加者＞

項目	4	3	2	1
ぜんたいのかんそうは、どうでしたか	75.8	21.2	3.0	0.0
１日目のスノーケリングは、どうでしたか	69.7	27.3	3.0	0.0
２日目のむじん浜でのキャンプは、どうでしたか	63.6	33.3	3.0	0.0
ぜんたいのすすめ方は、どうでしたか	66.7	24.2	6.1	3.0
しぜんのいえのひとは、どうでしたか	78.8	18.2	3.0	0.0
ボランティアのおにいさん、おねえさんは、どうでしたか。	81.8	18.2	0.0	0.0

４とてもよい　３よい　２すこしよくない　１よくない

◆参加者の声

○（スノーケリングは）いろんな生き物がいてきれいだった。

○（スノーケリングは）いろいろのさかながいたのでたのしかった。

○（無人浜でのキャンプは）あつかったけど、楽しかった。

○（無人浜でのキャンプは）キラキラしたものをあつめるのが楽しかったです。
○（自然の家の人は）やさしかったし安心できた。
○（自然の家の人は）ほう丁をもっているとき、やさしく見守ってくれました。
○（ボランティアのおにいさん、おねえさんは）いろいろ教えてくれて、うれしかった。
●（スノーケリングは）深いところにいくのがちょっと怖かった。
●（無人浜でのキャンプは）雨がふってきたのがいやだった。
●（無人浜でのキャンプは）ちょっとがたがたしていてねにくかった。
●（無人浜でのキャンプは）テントのなかがあつかった。

◆第２回夏のたんけんのまとめ

全体的に楽しかったとの回答がたくさんありました。2 泊 3 日と春よりも１泊長く、スノーケリングとキャンプ体験という体力的にも大変な夏のたんけんではあったが、綺麗な海と、普段なかなか行くことができない無人浜での体験をそれぞれが楽しんでくれていたと感じます。スノーケリングで深い海を泳ぐときにはちょっと恐怖感を感じたり、無人浜のキャンプの夜の強い雨でちょっと不安に思ったりとただ単に楽しいだけではない自然体験を感じてもらえたことも良かったと感じます。ボランティアの記録からは「グループのみんなと仲良くなりとても楽しそうだった」「他の班の子とも浜で遊ぶ姿が見られた」「テントの中でみんなで寝たこともあってか仲良くなっていた」など、春に出会った仲間たちとの関係をより深められた様子が随所に見られました。子どもたち同士だけではなく、ボランティアや職員との関係も深まりつつあります。あの子ならどんな風に活動するかなといったように、今後は、子どもたちの姿を想像しながら、事業を進めていくことができると思います。

＜秋のたんけん＞

◆日程

１０月２１日（土）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22					
					受付	はじまりのつどい	昼食（レストラン）	秋のたんけん①「里の秋を歩こう」		かみなか農楽舎まで約６キロの道のり		テント泊準備	夕食（野外炊飯）	「畑の恵みをいただこう」	入浴（きららの湯）	就寝	テント泊	ふりかえり	（かみなか農楽舎泊）			
１０月２２日（日）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15												
	起床		朝食（野外炊飯）朝のつどい		秋のたんけん②「畑のお手伝い」	自然の家に帰ろう	昼食（レストラン）	冬のけいかく秋のまとめ	おわりのつどい	解散												

◆様子

台風の進路を気にしながら始まった秋のたんけん。子どもたちは、雨にも負けずに、元気に集まってくれました。今回は、秋を見つけながらキャンプ地となるかみなか農楽舎まで約５キロのハイキングと、かみなか農楽舎での収穫体験と収穫した野菜で食事作りがメインの活動です。

秋晴れのもとで実施できればよかったのですが、冒頭にもあるように、台風 21 号の進路を気にしながらの実施で、ハイキ

ングの雨の中、ルートを短縮して実施し、かみなか農楽舎での収穫体験と野外炊事まではできたものの、かみなか農楽舎でのテント泊は中止し、自然の家に帰って泊まるようにしました。

これまでのキャンプでも力を発揮してくれたように、今回の秋のたんけんでも台風の雨に負けず、ハイキングでは、一人ひとり、思い思いの秋を見つけようと楽しく取り組んでいました。コスモスやセイタカアワダチソウ、ススキなどの植物、バッタなどの生き物。カタツムリを見つけて大はしゃぎの子もいました。自分たちでコースを決めながら、交通安全にも気を配って進んでいきます。わずか１時間ばかりの短い冒険となりましたが、子どもたちなりに楽しみ、発見の多いハイキングになったようです。

さて、かみなか農楽舎での野外炊事。ご飯を炊く係になったＫ君。一緒にするのはほとんど女の子。初めは少しだるそうな感じも見られたのですが、やり始めると、お米をこぼさないように気を配りながら、升を使って丁寧に量を量り、水加減を調整する時もしっかりと目盛りを読んでくれました。土かまどを使って炊飯。かみなか農楽舎の方に教えてもらいながら火を起こし、羽釜から漏れてくる蒸気（煙）の匂いに気を付けながら炊いていきます。どんな匂いがするのか興味を持ち、出てくる煙をあおいでたぐり寄せ「どんな匂いかな。」と五感を研ぎ澄ませて感じようとしています。野外炊事も少し手が空いてくると、動物を見に行く子、ボランティアリーダーと遊ぶ子など様々です。でも、ご飯が炊き上がるまで、かまどのそばを離れなかったＫ君。実は、周りの友達は、カレーライスを作りながら、焼き芋のおやつをほおばっていたようです。でも、そんなことには目もくれません。そして、ご飯が炊き上がりました。みんながおいしいと言って食べている様子、おかわりをする人が絶えず、あっという間になくなった様子に、ちょっと得意げになっているようにも見えました。

Ｋ君は誰かに褒められようと思ってやったわけではなく、ただ、係の仕事を最後まで一生懸命取り組んだだけだったと思います。でも、そのことが、周りをおいしい笑顔でいっぱいにしてくれたのです。

２日目は台風の影響を考慮し、早めに切り上げて解散しました。次はいよいよ最終回、冬のたんけんです。季節を肌で感じながら、自然の中でたくましさを身につけてきた子どもたち。最後はどんな姿を見せてくれるのか、楽しみです。

雨の中、頑張って歩きました

さつまいも掘りをしました

講師のかみなか農楽舎の八代さん

雨の中、頑張って歩きました

２日目は自然の家で朝食作り。農楽舎さんの食材で作りました。

美味しいご飯ができました

ボランティアとも仲良くなりました

片付けも協力してやります

思い出に残った様子を絵にします

集中して描いています

笑顔のすてきな絵ができました

◆アンケート結果

＜参加者＞

項目	4	3	2	1
ぜんたいのかんそうは、どうでしたか	71.4	22.9	5.7	0.0
1日目のハイキングは、どうでしたか	71.4	17.1	5.7	5.7
かみなか農楽舎での体験は、どうでしたか	58.1	35.5	6.5	0.0
ぜんたいのすすめ方は、どうでしたか	81.8	12.1	0.0	6.1
しぜんのいえのひとは、どうでしたか	76.5	20.6	2.9	0.0
ボランティアのおにいさん、おねえさんは、どうでしたか。	87.9	3.0	9.1	0.0

４とてもよい　３よい　２すこしよくない　１よくない

◆参加者の声

○（全体の感想は）すごくとてもたのしかった。
○（全体の感想は）ごはんをつくったりしてたのしかった。
○（ハイキングは）いろいろな「あき」を見つけられました。
○（ハイキングは）きんにくつうになりそうだった。
○（ハイキングは）つかれて、びちょびちょになったけれど楽しかった。
○（かみなか農楽舎は）みんなでたべるカレーはすごくおいしかった。
○（かみなか農楽舎は）いもがでっかいのをとれてうれしかった。
○（かみなか農楽舎は）ごはんをかまで始めてたけれてよかった。
○（ボランティアは）いろいろおしえてくれて、おもしろかった。
○（ボランティアは）優しかった。
●（ハイキングは）つかれた。
●（ハイキングは）雨がふって、足がぐちゃぐちゃになった。
●（ボランティアは）こわかった。

◆第３回秋のたんけんのまとめ

雨の中のハイキングではあったが、秋さがしを楽しそうにしている姿を見ることができました。しかし、雨具を着ていたが、暑くて脱いでしまう子や、草の中を歩いてズボンが濡れてしまう子も、健康管理面では課題が残りました。しかしながら、雨の中を歩くという経験は、通学中はあっても、普段の生活ではそう多くはないはずです。雨という自然を感じられたことも、その中を歩くことができたことも、いい経験になればよいと感じています。かみなか農楽舎での野外炊飯や農業体験は、子供たちの印象に残っているようでした。雨の中、畑で収穫した野菜。それを料理して食べた時の子どもたちはとてもいい顔をしていました。気になる回答が、ボランティアは

怖かったということです。子供との関わりの中で、うまく意思疎通ができなかった場面があったのか、詳しい状況は分からないが、次回も同じような感想が出るようであれば対応をしていきたいと思います。

台風の近づく中での実施であったために、活動を切り上げ、早めに解散とした。参加者は幸いにも無事に帰ることができたが、ボランティアの一部は、公共交通機関の乱れで帰宅することに苦労したと後から聞いた。実施の判断については、より慎重に検討する必要があると改めて感じたところである。

＜冬のたんけん＞

◆日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	（21：30就寝）	
2月3日　土					受付	はじまりのつどい	バス移動	昼食：弁当（予定）	冬のたんけん「雪遊びをしよう」場所：マキノ高原スキー場			入浴・バス移動	夕食（レストラン）	キャンドルのつどい	ふりかえり	就寝準備	就寝（本館　宿泊棟泊）	
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15								
2月4日　日	起床		朝食（レストラン）朝のつどい		（海の学習棟　調理室）		さよならパーティー	たんけんのまとめ	おわりのつどい保護者報告会	解散								

◆様子

トビーキッズのたんけん隊もいよいよ最終回の冬キッズを迎えました。この４回のトビーキッズたんけん隊を通して、いろいろな子どもたちの成長や自然と共にある子どもたちの様子に驚かされるところ見つけることのできた４回だったと感じています。

冬キッズでは、なんといってもメインはマキノ高原での雪遊びでした。すでに出来上がっているゲレンデのコースではなく、人が入ることの少ない場所で、自分たちで遊び場を作り、自分の体そのものを遊び道具にして、力いっぱい遊ぶ。そり遊びを中心に子どもたちの様子を見ていると、危険が少なく、そり遊びに適している場所を選んだり、初めは、滑る距離が短く、低い場所から滑り始めていたのが、だんだん高いところへと難易度をあげるなどチャレンジする姿が見られたり、そりを使っていたのが、いつの間にか道具を使うことなく自分の体をめいっぱい使って遊んだり、自分勝手をせず順番を守って滑ったり、滑り始める位置までよじ登るときに友だちの手を取ったりと、たくましく、また、ほほえましい姿を本当にたくさん見ることができました。

友だちとよりよくかかわったり、安全を判断したり、そんな力がついてきたのかな。

２日目は、さよならパーティでの豚汁、うどん作り。ボランティアの力も借りながら、協力して進めていきます。出来上がりも間近になってくると手持無沙汰になり、遊んでしまう姿もありましたが、テーブルを並べたり、道具を準備したり、最後まで後片付けをしたりと積極的にかかわろうとする姿が印象的でした。皆で作った豚汁・うどん・豚丼、もりもりと食べる姿も印象的です。ちょっと時間がおしてしまいましたが、楽しいひと時になったのではないかと思います。

生活面でも、食事の時のマナーや館内での過ごし方（春キッズは館内を猛ダッシュする姿も…）などあらゆるところで成長だなあと感じることが多くありました。

このような子どもたちの姿は今回の事業だけで育ってきたものではないと思います。きっと学校生活や地域での生活、家庭生活…子どもたちが経験してきたすべてのことを通しての成長だと思います。でも、子どもたちにとって、その貴重な経験の一つとして、このトビーキッズのたんけん隊での学びは大きかったはず。

四季折々、いろいろに姿を変える自然の中で、四季を感じ、その自然を遊び道具に、そして、自分自身の体も遊び道具に、めいっぱい遊びきった４回のトビーキッズたんけん隊でした。

最後のお別れは、やっぱり寂しい気持ちでいっぱい。またどこかで大きく成長した皆に出会えることを楽しみに・・・。

第４回は、久しぶりだね！ただいま！という雰囲気でスタート

マキノ高原での雪遊び

ボランティアさんと遊んだり…

雪だるまを作ったり…

そり滑りをしたり…

からだで滑ったり…

雪の中でたくさん遊びました

うどんを作ります

豚汁も美味しくできました

みんなで食べるとさらに美味しい！

隊員証を渡します

これからも様々な“たんけん”をしていこうね！

◆アンケート結果

＜参加者＞

項目	4	3	2	1
ぜんたいのかんそうは、どうでしたか	83.3	16.7	0.0	0.0
１日目の雪遊びは、どうでしたか	86.7	13.3	0.0	0.0
２日目のさよならパーティは、どうでしたか	66.7	26.7	3.3	3.3
ぜんたいのすすめ方は、どうでしたか	83.3	13.3	3.3	0.0
しぜんのいえのひとは、どうでしたか	86.2	10.3	3.4	0.0
ボランティアのおにいさん、おねえさんは、どうでしたか	82.8	10.3	3.4	3.4

４とてもよい　３よい　２すこしよくない　１よくない

◆参加者の声

○（全体の感想は）すごくたのしかったです。
○（雪遊びは）手ぶくろの中に雪が入ってつめたかった。すべりだいは、たのしかったです。
○（雪遊びは）ゆきだるまをつくれてうれしかった。
○（雪遊びは）雪がっせんができてよかった。
○（さよならパーティは）うどんがおいしかったです。
○（さよならパーティは）さいごのトビーだけどたのしかった。
○（ボランティアは）しっかりしていてやさしかったです。
○（ボランティアは）えがおでよかった。

◆第４回冬のたんけんのまとめ

最後の回ということで、楽しかったという感想を多く聞くことができた。特に雪遊びは、雪の降り積もったフィールドで、思い思いに好きな活動ができるようにしたいと思い、目の届く範囲で自由に活動できるようにした。雪だるまを作ったり、雪合戦をしたり、斜面を登って滑り下りたりと思い思いに雪と触れ合っている姿を見ることができた。また、さよならパーティでは、班

の仲間やボランティアと協力して、取り組んでいる姿がこれまで以上に見られた。同じ班の仲間との関係はもちろんのこと、班以外の子どもたちとの関係が深まっている雰囲気を感じることができた。また、子どもたち同士だけではなく、ボランティアとの関係も深まり、トビーキッズたんけん隊としての一体感を感じられた。ボランティアの記録にも、「バスでは近くの子たちと怖い話をして盛り上がったり、他の班の子ともしりとりをしたりと交流に意欲的だった」「久しぶりに会ったボラや友だちにはじめ人見知りをするところからスタートするのに、今日会った瞬間からいろんな人と話して笑顔で楽しそうだった」「他の班の人ともよく話していて春に比べよくしゃべるようになっていて成長を感じられた」などといった記載も見られた。これまでの積み重ねのおかげで、雰囲気がとてもよく１年間の活動を終えることができたと感じている。

４．成果と課題

（１）成果

〇繰り返し体験する機会ができる

春夏秋冬の計４回の活動（５泊９日）を通して、野外炊事や食事作りは、７回行った。特に、食事作りについては、複数回実施したことで、普段の生活にもつながっていることが、保護者のアンケートに記述があった。「カレーが作れる様になったのがうれしいようです」「包丁を出して野菜を切ると「できるでー」と自分でやりたいと言っていました」というように複数回実施したことで、“できるという自信”を持つことができ、普段の生活でもやってみようという気持ちが強くなると考えられる。カレー作りについては、春と夏と秋の３回、行った。３回目の時には、野菜を切ったり、皮をむくのも積極的にやっている様子が見られた。ボランティアが記録してくれたある子の夏のたんけんの様子に「春トビーの時にカレー作りで指を切ってしまっていたが、今回はじゃがいもの皮むきに再チャレンジしていた」とあった。繰り返しの体験の中で、またできる機会があることで、次はこうしてみようという“体験のつながり”ができていると感じられる。

テント泊については、秋にも予定していたが台風接近のため取りやめ、２回行った。夏のたんけんの時には、春のたんけんと比べてずいぶん早く設営できるようになっていたし、寝袋やマットの準備も何も言わなくても子どもたちがどんどん進めていた。

このように、繰り返しの体験の機会があることは、子どもたちの“できる”ことをどんどん増やしていき、次の体験への“つながり”を持たせるきっかけとなる。そうすることで、体験活動の量はもちろんのこと、質も高めていくと考えられる。今後も繰り返し体験することの意義を深めていく事業にしたい。

〇参加者、ボランティアスタッフの成長がわかる

４回の体験を通して、子どもたちの成長したところをたくさん見つけることができた。各回の子どもたちの様子を記録してもらっているボランティアの記録にも様々な成長の様子が記載されていた。「いつもだったらボラが持ち物を用意していたところ、今回は、持ち物だけ言ったら、一人で用意していて、成長を感じた」「包丁の腕前が見違えるほど、上達していました」「春から比べて、とてもいろんな子と話すようになったと思う」「春、夏、秋よりも積極的に様々なことに挑戦していて、急激な成長を感じた」春から子どもたちの様子を見てきたボランティアだからこそ気づく子どもたちの成長したところや変わった様子などを知ることができた。また、成長だけではなく、「今後はさらにリーダーシップを発揮して、周りに指示ができるようになればいいと思う」「みんなにほめてもらったりすると喜んでいたので、よいところをほめるともっともっと成長できると思った」といったように、どんな風に子どもたちに関わっていけばよいのか、子どもたちの成長を見取る中で、ボランティア自身も考えていることが伺えた。きっと、子どもたちの成長に気づくことで、ボランティアも成長しているのだろうと思う。秋や冬のボランティアと子どもたちの関わり方をみても、とても丁寧で、また、子どもたちの力を引き出そうとしているようであった。「今回は自分で全てやらせるように「できるしやってみて」と一声かけたら素直に行動するようになっていた」冬のたんけんの際に、頼ってくることが多い子に対して、あるボランティアは、自分でやってみるように声かけをした。その結果、その子は、自分でいろんなことをしてみようと思え、またそれができるようになったとのことであった。些細なことかもしれないが、参加者の成長の陰には、こうしたボランティアの関わりがあることが分かる。どんな風に

関わるのがいいのかを考えることで、ボランティアの子どもとの関わり方の幅がどんどん広がる。複数回機会がある本事業において、こうした子どもたちの成長を促す、ボランティアの関わりや職員の関わりについて、今後も注目していきたいと思う。

〇また体験してみたいが広がってきた

トビーキッズたんけん隊が数名ではあるが、当施設で実施する夏のフェスティバルや海のフェスティバル、クラフトマルシェなどの施設開放事業に参加してくれていた。子どもたちのまた体験したい、またやってみたいという気持ちが高まっているようであった。保護者のアンケートに次のような記述があったので、紹介する。

「１度でも体験するという事は、子どもにとってすごく大事な事なんだということに改めて気づきました。１つの体験が「次これもしてみたい」という新たな体験につながっているようです。」

「キャンプのテント張りやカレーが作れる等、体験した事、すべてにやった事がある、できる、と思えることは、本人にとっても親にとっても、嬉しく貴重な体験になったと思います。」

保護者の記述のように、体験したことがある、自分はこれができるということは、その子にとって、何らかの自信につながっており、その自信が、次に何かしてみたいという意欲をさらに高めているように思う。参加する前は、親元を離れて過ごしたり、新しい友達と活動したりすることに不安な気持ちを抱いたり、心配に思ったりしていたことと思うが、第４回にはそんな不安や心配は全く見られなかった。もちろん、慣れもあるだろうが、子どもたち一人ひとりの中に、「大丈夫」「何とかなる」という気持ちが芽生えていったと思う。ある保護者からは、「学校生活でも代表などに立候補するようになった」との記述もあった。本事業以外でも普段の学校や家庭での生活を通して、成長していったことと思うが、学校や家庭では体験できないことを体験できる場として、子どもたちの体験の幅を広げ、それがまた子どもたちの成長につながっていくように、今後も一つ一つの体験を大切に事業を進めていきたいと思う。また、様々な事業につながりや関係性を持たせ、また何かしてみたいという子どもたちの思い、保護者の思いに、応えていけるようにしていきたいと思う。

（２）課題

●事業での体験を次につなげる仕組みの必要性

事業の成果でも触れたが、本事業に参加してまた、何かしてみたいという思いを持った参加者に対するアプローチの方策を検討してみたい。昨年度の例で言えば、本事業の対象年齢である、小学１年生～３年生の子どもたちが参加できる事業は、「夏のフェスティバル」「海のフェスティバル」「クラフトマルシェ」「食育体験シリーズ」の４事業である。そのいづれにも、本事業の参加者が来てくれていた。今後も、こうした横の事業間の連携も考え、各回の最後には、別事業の案内もするなど、当施設の事業を個々の事業として見ていくのではなく、１年間を通して様々な体験の機会を提供できる機会としてとらえ、各事業の特色を活かし、実施していけるようにしてみたいと思う。

また、本事業は２年目であるが、これまで参加してくれた参加者を対象として何らかの事業を実施してみたいとも考えている。保護者アンケートに、今後親子での体験の機会があれば、参加したいか尋ねたところ、参加者のほとんどが「はい」と答えていた。親子で、この若狭地域の自然の中で、協力しあったり、楽しめたりする機会を設けることで、家庭にも体験活動が広がっていけるように検討したい。

●参加対象者の見直しの必要性

これまで、１年生～３年生を対象に事業を実施してきたが、次年度で３年を迎えるため、対象学年について、３年を終えた時点で見直しをしてみたい。もう１学年ずつ下げ、幼稚園年長児から小学２年生を対象としてみたいと考えている。平成３０年から改訂される保育所保育指針や平成３２年から全面実施となる小学校学習指導要領にも、幼少の接続がキーワードとなっている。そうしたことから、幼児期から小学校低学年の子どもたちを対象として、自然の中での遊びや体験を通して成長する子どもたちの姿を、年間を通して見ていきたいと考えている。さらには、年長児には、これから入学する小学校を意識する機会として、また小学校１、２年生は、遊びから学ぶことを再認識できる機会として、体験活動の可能性を深められる機会としてみたいと考えて

いる。

●保護者の理解を深める機会の必要性
　本事業では、冬のたんけんの際に、保護者報告会を実施し、これまでの活動の様子を保護者に伝える取り組みを実施している。実施に子どもたちが活動している様子を伝えることで、子どもたちが帰ってから話していることを知ってもらったり、安心してもらえる機会として考えている。これまでは、一方的に活動の内容を話したり、写真を見てもらったりしているだけであり、もう少しきちんと子どもたちの様子を伝えられないだろうかと考えた。本事業では、ボランティアに子どもたちの活動の様子を記録してもらっている。その内容は、子どもたちの成長の記録とも言える。それを保護者に伝えることで、本事業に対する理解や体験活動に対する理解を深める機会になると考えた。活動中は、子どもたちに寄り添い、その活動の支援のみならず、荷物整理や着替えなどの生活の支援もしてきたボランティアスタッフは、短い関わりではあるが、一人ひとりの長所や短所、頑張っていることやもうちょっと頑張って欲しいことなどをよく見取ってくれていた。次年度は、こうしたボランティアスタッフから見た子どもたちの様子を、直接、保護者と話をする中で伝えてもらい、今後の子どもたちの成長の参考にしてもらえないかと考えている。学校の先生からは、保護者面談などで学校での様子を聞く機会がある。学校でも家でもない、第３の場所で、新たに出会う仲間たちとどんな風に過ごし、活動に取り組んでいるのか、普段知る機会はなかなかないと考えらえる。思った通りの様子なのか、また、新たな発見があるのかはわからないが、こうした視点から子どもの様子を知ることは、保護者にとってもよい機会になると考えられる。また、ボランティアにとっても、保護者の関わる機会は、社会人になったり、自分自身が親になっていく中で、学び多い機会となると考えてられる。ぜひ、次年度の実施に向けて、その内容や子どもたちの様子の記録の方法などをきちんと整理し、実施してみたいと考えている。